

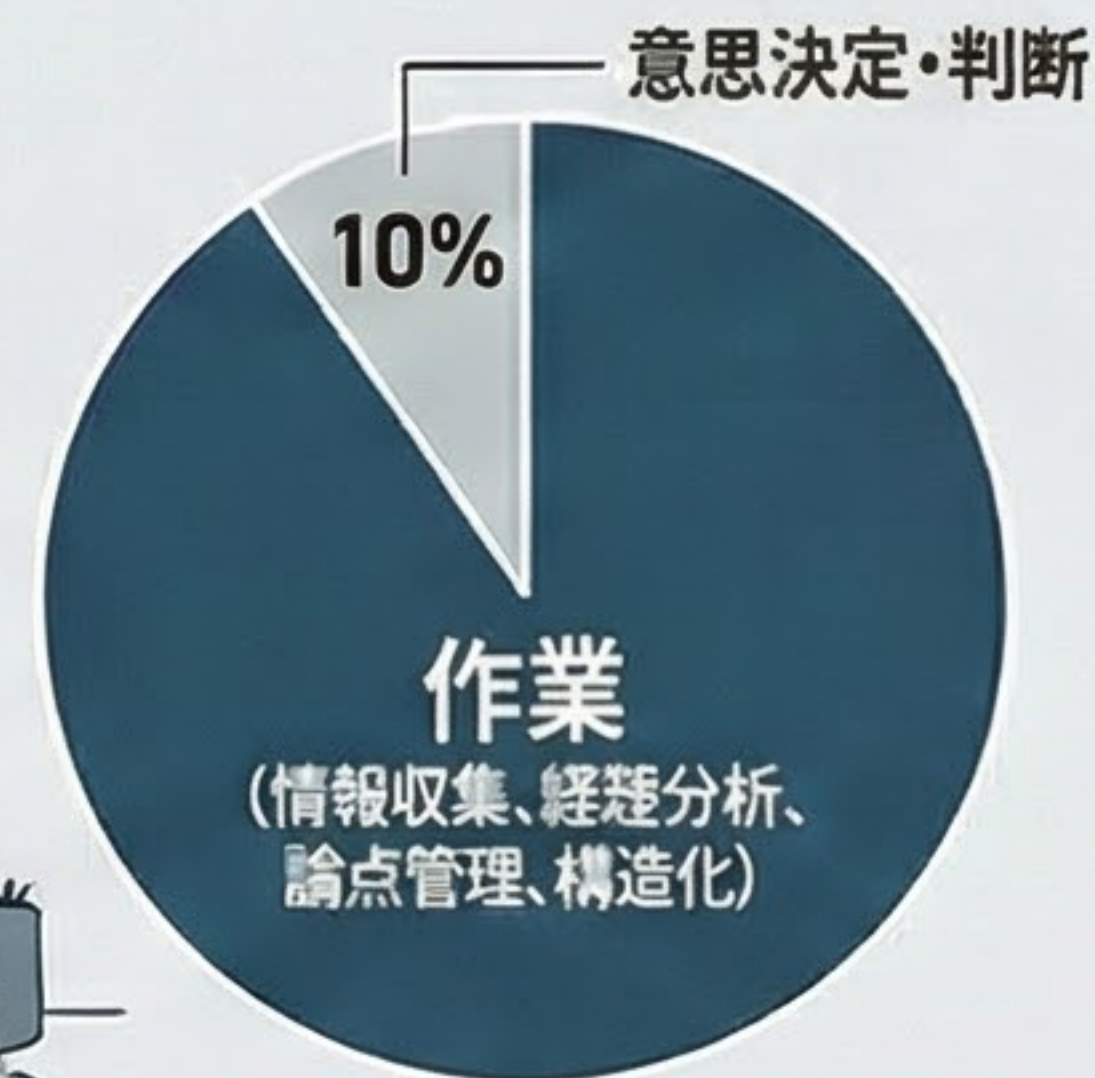
AIが変える知財業務:「作業」から「意思決定」へ

次世代AI (GPT-5.2、Gemini 3) の登場による知的財産業務の構造変革

従来のプロセス: 作業中心の世界

業務時間の**90%**が「作業」に費やされる

専門家は、膨大な文献調査や資料のドラフト作成といった反復的で時間のかかるタスクに忙殺されていた。



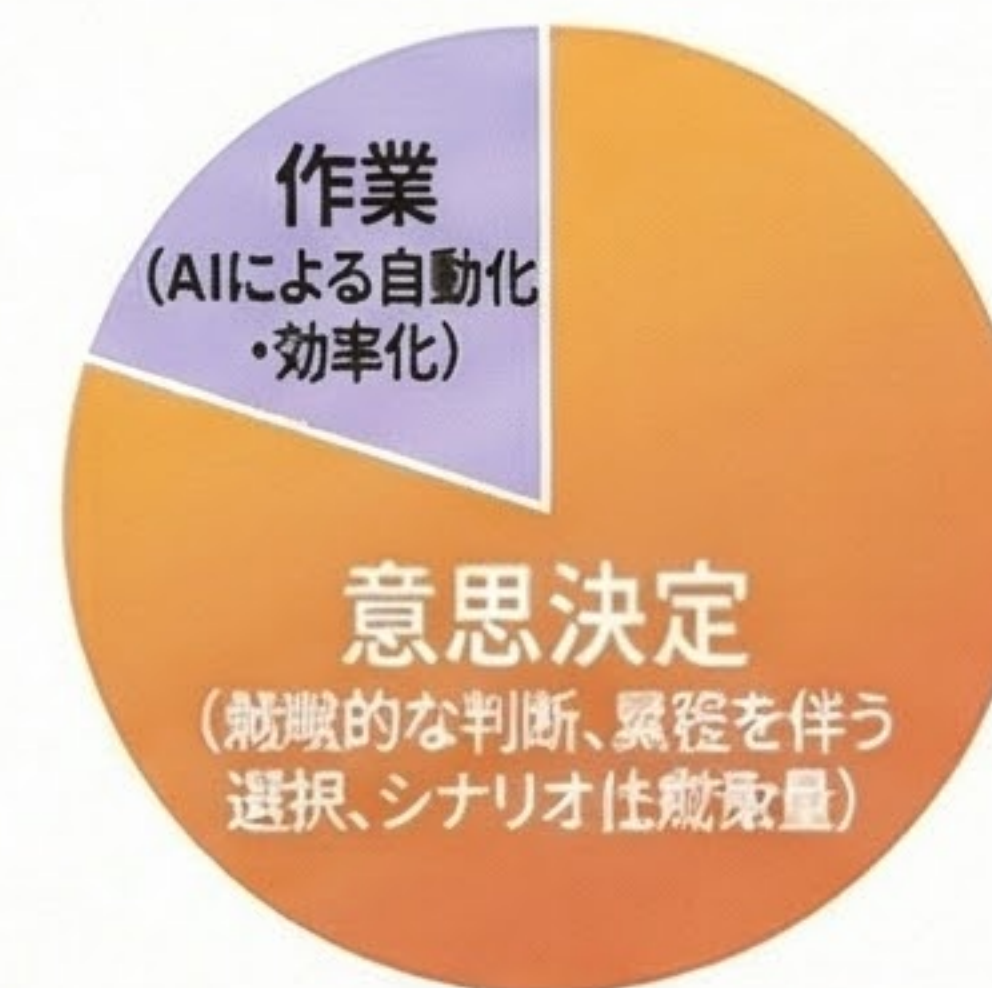
● 人間の手作業が中心

検索、分断、分析、資料化の全工程で、担当者の個人的なスキルと多大な努力が必要とされた。



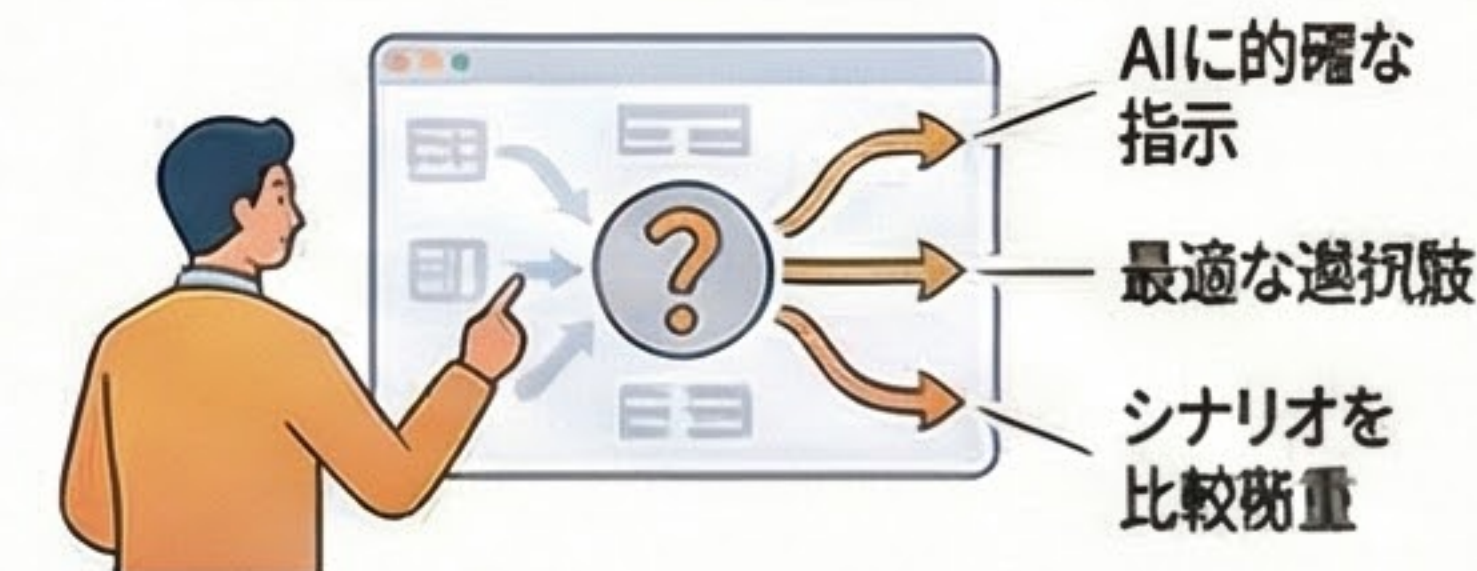
業務プロセス	時間配分 (後来)	
	意思決定・判断: 10%	
課題分析 40%	論点管理・構造化 30%	情報収集 20%

AI導入後のプロセス: 意思決定中心の世界



AIが作業を代替することで、人間は戦略的な判断や責任を伴う選択にリソースを集中できる。

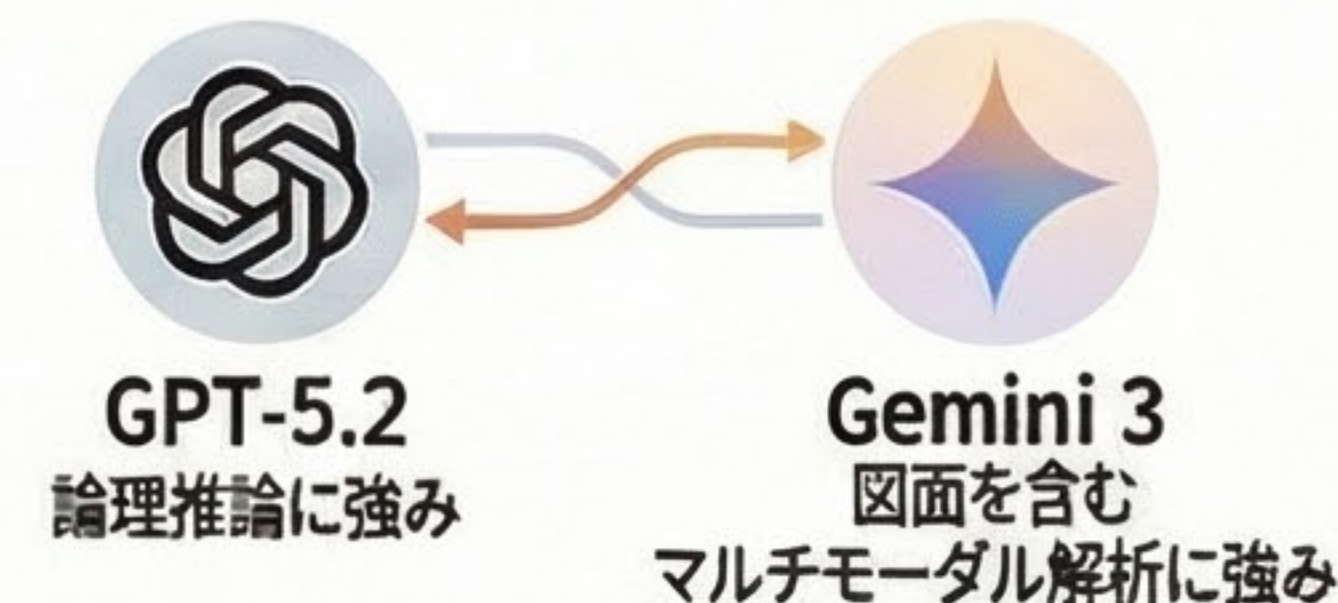
● 人間の役割は「問いの設計者」へ



AIに的確な指示を出し、生成された複数の選択肢から最適なものを選び、シナリオを比較・最重する能力が重要になる。



● 2大AIモデルが変革を主導



導入における主な課題

スキルの空洞化リスク

AIが下議を議論を代替するため、若手人材が最優秀スキルを習得する機会が失われる危険性がある。



日本特有の文化的障壁

AIの図略性と、日本の「寛論」「模回し」といった合意形成プロセスの速度不一致が導入の障壁となる。